

令和8年度第1回千葉市図書館協議会議事録

1 日時 令和8年8月7日（金） 14時00分～15時50分

2 場所 千葉市消費生活センター3階 研修講義室

3 出席者

（1）委員

伊藤節治委員・伊藤祐美委員・木元美子委員・高井力委員・福島浩之委員
松尾修一委員・本杉みゆき委員・吉野知義委員・渡邊葉子委員

（2）事務局

佐久間中央図書館長・鈴木中央図書館管理課長・堀中央図書館情報資料課長
藤井みやこ図書館長・大塚花見川兼稲毛図書館長・柴崎若葉図書館長
市川緑図書館長・東端美浜図書館長・堀中央図書館管理課長補佐

（3）傍聴人

11人

4 議事

（1）委員長及び副委員長の選出について

（2）令和7年度千葉市図書館の評価(案)について（評価実施：R8、評価対象：R7）

（3）令和8年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

（4）千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画について

5 概要

（1）委員長及び副委員長の選出について

（2）令和7年度千葉市図書館の評価(案)について（評価実施：R8、評価対象：R7）

（ア）事務局より説明

（イ）外部評価部会長より外部評価の報告

（ウ）質疑応答・協議

（エ）原案のとおり承認

（3）令和8年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

（ア）事務局より説明

（イ）質疑応答・協議

（ウ）原案のとおり承認

（4）千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画について

（ア）事務局より報告

（イ）質疑応答

6 会議経過

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(佐久間中央図書館長)

委員長の選出まで、代わりに議事の進行を務めさせていただく。委員長及び副委員長は千葉市図書館管理規則第24条第1項の規定により、委員の互選により選出する旨、定められているが、委員の皆様からご意見等あるか。

(松尾委員)

前期において、図書館の学識経験者である吉野委員長のもと、非常に有意義な会議が運営されていたため、今期においても、吉野委員に委員長をお願いしたいと思うが、いかがか。

(委員)

異議なし。

(佐久間中央図書館長)

松尾委員から吉野委員を推薦いただき、委員全員の賛同を得られたため、吉野委員を委員長に選出する。以降の議事進行は、吉野委員長に引き継ぐ。

(吉野委員長)

続いて、副委員長を選出する。副委員長も委員長の選出と同様に、委員の互選により選出する形だが、委員の皆様からご意見等ないか。

(委員)

意見なし。

(吉野委員長)

前期に副委員長を務められ、有意義なご意見をいただいた松尾委員を副委員長に推薦したいと思うが、いかがか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

それでは松尾委員を副委員長に選出する。

(2) 令和7年度千葉市図書館の評価(案)について(評価実施：R8、評価対象：R7)

【事務局から説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

資料1に基づき、内部評価に関する以下の事項を説明

- ・「千葉市図書館の評価」の経緯
- ・令和7年度の千葉市図書館評価(案)の構成
- ・内部評価の結果

【外部評価について説明】

(高井委員)

資料1に基づき、外部評価に関する以下の事項を説明

- ・図書館サービスの基本的な取組事項
- ・令和7年度主要事業一覧

【質疑応答】

(伊藤節治委員)

居場所づくりの視点で見ると、6ページの2「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)」について、その考え方を図書館運営にどのように取り入れていくのが論点になると思うが、その点については取組項目に記載されていないのか。

また、多様な主体による知の創出というテーマだが、13ページのNo.45「その他の取組み」について、「多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募委員による委員を登用します。」とあり、多様な主体ということについてもう少し掘り下げた項目建てが必要と考えるが、どのように考えているのかお伺いしたい。

(佐久間中央図書館長)

プラットフォームを含む各項目については、今後取り組むべき長期的な目標として、将来目指す方向性を示したものである。また、評価については年度評価として位置付けており、前年度に実施した取組内容を記載している。

多様な主体については、おっしゃるとおりであり、今後様々な図書館の関係団体にご協力をいただきながら、進めていきたいと考えている。

(吉野委員長)

取組項目の構成については、事務局から説明があったとおり、年度ごとの取組状況に応じて項目の追加や見直しが行われるものであり、年度によって内容が変わることをご理解いただきたい。

(木元委員)

利用者のニーズを把握するという点について、令和7年度に実施した具体的な取組があればお伺いしたい。

また、図書館サービスの基本的な取組事項の評価が「C」とのことだが、その要因で何か思い当たることがあればお伺いしたい。

(佐久間中央図書館長)

普段、図書館を利用しない方から意見をいただくことは重要であると考えている。図書館は公共施設の中では市民の利用率が高いものの、市民の登録率は約22%、年度内に貸出を受けた市民の割合は約6%にとどまっている。意見を把握するためのアンケート調査を実施しているが、普段、図書館を利用しない方とは接点がなく、意見を伺う機会を設けることが難しい状況である。

若者への情報発信については、紙媒体では十分に届きにくいことから、SNSを活用した広報を中心に行っている。一方で、SNSは利用者の関心に応じた情報が優先的に表示される仕組みであるため、関心の低い層へ情報を届けることが難しいとの見方もある。現時点では、まずは図書館利用者からの意見聴取を進めていきたいと考えている。

また、取組項目の評価が「C」となった主な要因の一つとして、令和6年度と比較して資料整備費が減額となり、新刊図書の受入れが減少したことで、来館者数や貸出冊数に影響が生じ、目標を達成できなかったことが挙げられる。加えて、コロナ禍以降、利用者数は回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の水準までには回復しておらず、こうしたことも要因の一つであると考えている。

(木元委員)

資料整備費が少ないことが最大の要因だと考えているが、来館者数がそれほど減少していない一方で、年間貸出利用者率や市民一人当たりの貸出冊数が減少していることから、図書館に来館しても貸出につながっていないのではないかと考えている。この点について、どのように考えているのか。

(佐久間中央図書館長)

来館者の中には、雑誌や新聞を読むなど、図書の貸出以外を目的に来館される方もいる。一方で、新しい本がない場合には貸出につながりにくいため、ご指摘のとおり、来館者数が一定程度ある中でも、貸出につながっていないケースがあると考えている。

(本杉委員)

児童書のエリアでは本が探しにくいという印象がある。一般向けの本には作者名による見出しがある一方、児童書については絵を描いた方の五十音順で配架されているため、普段図書館を利用しない方にとっては、本を探しにくいのではないかと。絵を描いた方の見出しを設置したり、本の探し方について分かりやすく案内したりするなど、利用者が本を探しやすくなるよう工夫していただきたい。

(木元委員)

令和6年度取組項目には、「学校図書館指導員研修会にて団体貸出について説明を実施」、「学校図書館主任協議会において新たな取組や団体貸出について説明」と記載されているが、令和7年度取組項目にはその記載がない。

また、9ページの21「学校・学校図書館との連携・協力の推進」についても、令和6年度には「赤ちゃんとのふれあい絵本ボランティア全体研修会」の講師を務めたことなどが記載されているが、令和7年度には記載がない。加えて、実施時間も短くなっている。家庭に本を届けることの大切さを踏まえ、現在実施している取組を改めて見直し、取組の意義を伝える機会をなくさないようにしていただきたい。

(佐久間中央図書館長)

学校図書館関係者への団体貸出の説明については、令和7年度も引き続き実施しているが、すべての取組を記載しているわけではないため、今回は記載していなかった。

また、「赤ちゃんとのふれあい絵本ボランティア全体研修会」の講師派遣については、図書館の主催ではなく、依頼を受けて講師を派遣するものであり、今回は派遣の要請がなかったためと認識している。

(伊藤節治委員)

多様な主体による知の創出・活用について、市全体では市民協働や市民自治を推進しているが、図書館として市民との関わりをどのように考え、どのような方向性で進めていくのか、基本的な考え方を整理していただきたい。その点について、どのように考えているのか。

(佐久間中央図書館長)

図書館ビジョン2040の中では、SNSネットワーク上に図書館利用者向けのプラットフォームを構築する等し、情報発信や意見交換を通じて、市民同士の知的交流を促進することなどを記載しており、そのような視点を意識して進めていきたいと考えている。

(伊藤節治委員)

ボランティアなど、協力いただける市民の方々と連携しながら、行政サービス全体をフォローアップしていくような仕組みを構築していただきたい。

(吉野委員長)

本件について、様々なご意見をいただいたが、事務局からの案を承認してよいか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

本案を承認する。

(3) 令和8年度千葉市図書館のサービス取組項目及び評価指標(案)について

【事務局から説明】

(鈴木中央図書館管理課長)

資料2に基づき、以下の事項を説明

- ・ 図書館サービスの基本的な取組事項
- ・ 主な取組項目

【各地区図書館長より館独自の取組等報告】

(藤井みやこ図書館長)

みやこ図書館では、近隣の関係機関との連携に力を入れており、小学校と連携した児童・生徒向けの事業や環境づくりを進めている。先月末には小学校3年生を対象とした、職業体験事業「子ども一日図書館員」を実施した。昨年度好評であったことから、今年度は開催日を1日増やし、定員16名に対して33名の応募があった。参加した児童からは、「将来図書館で働きたい」といった感想も寄せられた。

また、児童・生徒向けの蔵書についても、子どもたちの好奇心を広げることができるよう、充実に努めている。

（大塚花見川兼稲毛図書館長）

稲毛図書館では、今年の千葉開府900年を記念し、地域の方のご協力を得て、ジオラマや昔の地図の展示等を実施。

花見川図書館では、併設のこてはし台公民館の主催事業において、図書館の本の紹介を行う等、共催を通じて本への関心を高める取組を実施。

（柴崎若葉図書館長）

若葉図書館では、近隣高校の生徒が読み聞かせを行う「高校生が語るおはなし会」を実施。この事業は、高校生が子どもたちと触れ合いながら読書の楽しさを伝えるとともに、高校生自身の表現力やコミュニケーション能力の向上にもつながると考えている。

また、子どもにとっては、本人の興味・関心や読書意欲の向上につながるとともに、保護者にとっても、地域の高校生が活躍する姿を見ることで、地域とのつながりを実感できる機会となっている。世代を超えた交流と、読書活動の推進を図る機会として、今後も継続して実施していきたい。

（市川緑図書館長）

緑図書館では、2～3歳児とその保護者及び4歳児～小学生を対象に、毎週金曜日に定例のおはなし会を実施。

あすみが丘分館においても、0～3歳児とその保護者及び4歳児～小学生を対象としたおはなし会を、毎月第2水曜日に実施。

他館と比べ、緑区は子育て世代の参加者が多く、リピーターも多いことから、参加者が飽きることなく継続して参加できるよう、内容を工夫して実施している。

（東端美浜図書館長）

美浜図書館では、昨年度7月に、児童向けの「おたのしみぶくろ」、1月には、一般・ヤングアダルト・児童向けの「本の福袋」を実施。この取組は、図書との新たな出会いを創出し、読書の幅を広げてもらうことを目的とした取組で、職員が選書した2冊の本を、中身が分からないよう袋に入れて貸し出すものである。昨年度の実施では、「おたのしみぶくろ」を50袋、「本の福袋」は約110袋を用意し、いずれも大変好評であった。

今年の7月には、児童向けに、千葉開府900年を記念した「おたのしみぶくろ」を実施し、一般・ヤングアダルト・児童向けの「本の福袋」についても、来年1月に実施する予定である。

【質疑応答】

（伊藤節治委員）

予約数が多い資料であっても蔵書数が少ないものがある一方、予約数が少ないにも関わらず蔵書数が多い資料も見受けられる。予約状況と蔵書数のバランスを考慮し、予約数が多い資料については買い足すなどの対応を検討していただきたい。

また、11ページ（5）関係機関との連携について、「図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種相談などとの協力を推進」とあるが、具体的にはどのようなこと実施するのかお伺いしたい。

(堀情報資料課長)

予約数と蔵書数の関係については、ご指摘のとおりであり、利用者にお待ちいただいている状況は把握している。予約数が多い場合には、各館で状況を共有し、追加購入を検討している。

一方で、現在のベストセラー本も数年経過すると予約が減少することから、出版からの経過年数も考慮しながら、蔵書数とのバランスを図っていく必要があると考えている。

(佐久間中央図書館長)

関係機関との連携については、企画展示などの図書館業務において協力をいただいているほか、読書まつりなどのイベントの実施に当たっても関係団体の協力を得ており、連携を進めている。

(伊藤節治委員)

今後、より積極的に市民を巻き込んでいくことを考えているのか。

(佐久間中央図書館長)

市民が企画する講座やイベントなども将来的には実施を考えているが、現時点では実施には至っていない。

(木元委員)

各地区図書館長からの取組報告が聞けてとてもよかった。図書館内での取組が中心であったため、外部の企画にも積極的に参加し、地域の方との接点を築きながら情報を得るような取組も進めていただきたい。また、先進的な取組や特色ある取組については、地区図書館同士で情報共有を行うなど、職員間の交流や連携も進めていただきたい。

(佐久間中央図書館長)

図書館が外部に出て活動することは重要であり、特に郷土資料については、関係機関から情報を得ながら収集等を進めていきたいと考えている。

(木元委員)

レファレンスに関して、令和7年度に実施したオンラインデータベース講習会は大変好評であったため、令和8年度も開催していただきたい。

また、花見川図書館の改修時には、こてはし台公民館で貸出を行っていたが、白旗分館についても休館中に貸出を実施する予定はあるのか。

(佐久間中央図書館長)

白旗分館について、現時点では住民説明会前であるため、回答は差し控えさせていただく。

(木元委員)

目標達成項目について、前年度比ではなくもう少し具体的な数値を設定するなど、記載内容を検討する余地はないのか。

(佐久間中央図書館)

達成目標については、できる限り数値化して記載してほしいとのご意見を昨年度の図書館協議会でもいただいているが、「何パーセント増を目指す」といった数値目標を設定することは難しい状況である。今年度はさらに資料整備費が減額となっていることから、現時点では目指す方

向性を示す記載としている。

(吉野委員長)

目標設定は難しい課題である。特に利用者数や貸出数については、大学図書館でも同様の傾向が見られ、コロナ禍以降、入館者数は8～9割程度まで回復しているものの、貸出数は半数程度の回復にとどまっている。要因としては、コロナ禍だけでなく、インターネットやAIの普及なども考えられる。本来であれば、そのような状況を踏まえた上で数値目標を設定できることが望ましいが、現状ではそのような目標を設定することは難しく、今回のような方向性を示す目標設定もやむを得ないと思う。

(渡邊委員)

達成目標について、学校教育の立場から意見を述べる。学校においても、図書室の貸出数や児童の読書状況は毎年度調査しているが、毎年増加するものではなく、読書離れを防ぐことを目標としても、達成は難しい状況にある。その要因の一つとして、以前配布された「一人一台端末」により、調べ学習等でインターネットを利用する機会が増えていることが挙げられる。一方で、インターネット上の情報を正しいものとして受け取ってしまうことへの懸念もあり、正確な情報を得る手段として、書籍を活用することの重要性は変わらないと考えている。ICT活用が進む中、読書に関する目標を現状維持とすることも容易ではないと思う。

また、学校との連携について、図書館見学等、学校からの依頼に対応いただいていることはありがたい。また、子ども一日図書館員等の取組は、子どもたちの図書館利用だけでなく、キャリア教育にもつながるものと考えている。今後も、学校と図書館等との連携をさらに深めていければと思う。

(吉野委員長)

本件について、様々なご意見をいただいたが、事務局からの案を承認してよいか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

本案を承認する。

(吉野委員長)

図書館の評価に関して、今期の外部評価部会員を選出したい。外部評価部会員については、千葉市図書館管理規則第26条第2項により、委員長の指名と定められているため、私の方から指名する。

前期から引き続き、高井委員、渡邊委員、また、今期からの新たな部会員として伊藤節治委員の3名にお願いしたいと思うがいかがか。

(委員)

異議なし。

(吉野委員長)

それでは高井委員、渡邊委員、伊藤節治委員の3名を外部評価部会員に指名する。

(4) 千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画について

【事務局から説明】

(堀中央図書館情報資料課長)

資料3に基づき、以下の事項を説明

- ・第1次計画の取組みに対する実施状況
- ・第2次計画の策定の方向性の整理
- ・第2次計画の策定スケジュール

【質疑応答】

(本杉委員)

スライド5の、「重点的に取り組むべき項目への取組み状況」の中で、読書まつりや図書館だより等でPRを実施とあるが、今年の読書まつりでそのようなイベントや計画があればお伺いしたい。

(堀情報資料課長)

イベントという形では現時点では考えていないが、これまでに作成してきたインタビューの記事を掲示したいと考えている。

(本杉委員)

掲示だけではなく、例えば千葉市図書館のHPで広報を行い、デジタルアーカイブの見方等、実際に体験してもらおうとPRになるかと思う。

(堀情報資料課長)

ネットの操作について、複数の方に提供する場を設けることに課題はあるが、ご意見を参考にしながら、今後検討していく。

以上